

都立青山高等学校 令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 名 称： 東京都立青山高等学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局構成： 副校長、経営企画室長、
- (3) 内部委員構成： 校長、副校長、教務部主任、生徒保健部主任、進路部主任、DX 探究部主任 広報部主任 3 学年主任 計 8 名
- (4) 協議委員構成： 外部有識者 1 名、教育関係者 1 名、地域団体代表 2 名、同窓会代表、後援会代表、保護者代表、必要に応じて校長が指名する者 計 10 名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）

第1回 令和 5 年 6 月 24 日（土） 内部委員 8 名、協議委員 9 名	・ 令和 4 年度学校経営報告・令和 5 年度学校経営計画 ・ 学校運営連絡協議会実施報告及び学校運営連絡協議会の趣旨説明 ・ 各分掌主任から年間計画
第2回 令和 5 年 11 月 25 日（土） 内部委員 8 名、協議委員 9 名	・ 4 月からの学校運営、各分掌主任からの経過報告 ・ 外苑祭、夏季部活動合宿報告 ・ 学校評価アンケートについて
第3回 令和 5 年 2 月 17 日（土） 内部委員 8 名、協議委員 9 名	・ 学校評価、授業評価、生徒実態調査等の結果報告 ・ 12 月からの学校運営、各分掌主任からの経過報告 ・ 年間報告

(2) 評価委員会

第1回 令和 5 年 11 月 19 日（土） 内部委員 2 名、協議委員 1 名	・ 学校評価の基本方針の確認、学校評価の観点・項目、内容の検討
第2回 令和 5 年 2 月 18 日（土） 内部委員 8 名、協議委員 9 名	・ 学校評価及び授業評価アンケート集計結果の分析・考察、意見交換

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 評価の項目

- ア 生徒： 本人の学校生活と家庭生活、学校の教育活動
- イ 保護者： 子供の学校生活と家庭生活、学校の教育活動
- ウ 地域： 学校と地域の活動、関わりについて
- エ 教職員： 生徒の学校生活と家庭生活、学校の教育活動

(2) アンケート調査の実施時期、対象、規模

- ・ 実施時期： 令和 5 年 11 月下旬から令和 6 年 1 月上旬までの間
- ・ 対象・規模： 生徒・保護者 各 824 人、教職員 50 人、外部委員 10 名
- ・ 回答率： 生徒 97% (798 人)、保護者 71% (590 人)、教職員 100% (50 人) 外部委員 100% (10 名)

(3) 主な評価項目

学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、
ライフ・ワーク・バランス

(4) 評価結果の概要

・保護者や地域の皆様から、感謝・激励の言葉を多くいただいたともに、保護者からは、設備面を中心に多数の御意見をいただいた。学校で過ごす生徒・教員からは、意見や注文がより具体的となり、学校の満足度をより高次にするための指標が提示された。

意見の中には、学校のルールが浸透していないことが原因で、改善を提案するケースもあった（部活動の終了時刻、自習室の使用法）。保護者会、三者面談、学校ポータルサイト、ホームページ等、様々な手段で情報を伝える必要がある。

・保護者意見については、本校について生徒や Web、行事、保護者会等からの情報により、感謝の意から御意見まで幅広く見受けられる。特に学習指導を中心に行事・部活動など「三兎を追う」を実践し、成長する我が子の姿を見て感慨し、学校への感謝を示していただけた。一方、空調・トイレに関することは相変わらず御意見としていただいている。空調に関しては、令和 6 年度から入替のための設計が始まり数年で設置完了の予定。トイレは今後の課題である。また土曜授業が多く、生徒の負担が大きいいという御意見も若干見受けられた。少数ではあるが、カリキュラムに対する意見、教科指導の力量不足を指摘する意見もある。入学当初は子供を塾に通わせるか悩む保護者が多かったが、本校の指導体制 20 時までの自習室の活用事例から、学習については学校に任せられるという意見もあった。特に第 3 学年（76 期生）に対する指導は担任団の指導が行き届いており、大学受験に関して安心して任せられたとの意見もあった。

・地域の意見からは、おおむね高評価をいただいた。コロナ期間に中断となった地域との連携事業について、今年度、（形は変えつつも）再開できたことや、生徒達が間近で活躍する姿を肯定的にとらえていただいた。一方、学校を評価するには、情報が少ないという御意見もいただいた。学校が地域と共にある以上、地域連携をより推進することは必須である。

・生徒意見については、「特になし」というコメントが大多数である。これは、「無関心」ということではなく、現状におおむね満足していると肯定的にとらえたい。意見・要望は施設面に関することが多かった。保護者からはトイレよりも空調に関する意見が多かったのに対し、生徒からはトイレ改修の要望が空調のそれを上回っていた。

・教員については、気付き、意見が圧倒的に多く、生徒との関わり、働き方、カリキュラム、指導について、設備について等、多くの教員が課題意識をもっている事案がそのまま提示された。また、生徒に対する教科指導、進路指導について、教師の考えが必ずしも全員が同じベクトルを向いていないという意見も見受けられた。早急に改善すべき事案、時間がかかる事案等様々だが、このアンケートを参考に改善すべきは改善する。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・Xを始め、学校広報がわかりやすく頼もしい。中学生やその保護者にタイムリーで有益な情報が提供されている。
- ・熊野神社でのボランティア活動、ブラジルのボサノバ演奏会、特別支援学校の青フィルとの交流など地域連携に感謝している。地域連携活動は引き続き密にしていきたい。
- ・部活動では挨拶がしっかりできていて気持ちがいい。普段の生活でも挨拶ができるとなご良い。あいさつで印象が違う。
- ・トイレの改善について、大学でも最初に改善するのはトイレであり、生徒募集には重要な項目となる。
- ・図書室の活用が生徒の自習となっている側面が多く、読書や授業で使っていないという意見があり、

図書室の運営について検証する必要がある。

- ・教員のケア生徒の下駄箱周辺がきれいになった。一方、自習室では、誇りが多くペットボトルが放置していることもある。ボランティアでよければ美化活動に参加したい。生徒同士で教えあっている姿が素晴らしい。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）成果

様々な立場から評価や意見をいただくことで、これまで気付かなかった課題や問題点、改善点が把握できた。学習指導については、満足の回答が多くまた進学実績も進学指導重点校としての責務を果たしていることから、本校の取組みが評価されている。自由記述アンケートに見られる意見要望、提案についても、優先順位を付けつつ、対応策を令和6年度の学校経営計画に明記し、真摯に取り組んでいく。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかになった課題

- ア．生徒の実態に応じた教育活動の展開
- イ．施設の改修と美化
- ウ．授業力の更なる改善

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- （1）トイレの悪臭対策、個別空調の設置拡大、グラウンドの整備等、教育環境の整備を一層推進する。
- （2）大学入試改革を見据えた自校作成問題の継続、校内学力テスト、定期考査の改善及び目標値を設定し、進学実績の一層の向上を目指す。若手・中堅の人材育成、課題のある授業者への指導を計画的に実施していく。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合 10名回答

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からな い	無回答
10	0	0	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

次年度は協議委員の授業参観を実施する予定である。